

第1回 大田区景観審議会 景観賞専門部会 議事要録

- 日 時 : 2015年2月12日(木) 18:00~20:15
- 場 所 : 大田区役所2階 203会議室
- 出席者 : 野原部会長、加藤委員、平澤委員、荘委員、杉田委員、杉山委員
大田区(事務局) 西山課長、中村係長、石塚主任、庄司主任
(株)計画技術研究所(KGK) 須永、阿部(記)
- 資料 : 次第
資料1 (仮称)大田区景観賞(案)について
資料2 (仮称)大田区景観賞推薦用紙(案)
資料3 (仮称)大田区景観賞スケジュール(案)
参考資料1 他自治体表彰制度事例

□ 議事内容

1. 議 題

(1) (仮称)大田区景観賞(案)について

- ・KGKより「資料1(仮称)大田区景観賞(案)について」、「資料2(仮称)大田区景観賞推薦用紙(案)」を用いて説明。
- ・賞の名称は「大田区景観まちづくり賞」とする。

【賞の名称について】

加藤委員 : 景観賞は大田区における今後の景観づくりにつなげていくことになるので、景観づくり賞、景観まちづくり賞といった名称が良い。区民を巻き込んでいくイメージだと思うので、景観賞から変更したほうがよい。

杉山委員 : 横浜市の表彰制度のように「人・まち・未来賞」といった名称が良いのではないかと。次につながるということが表現できると良い。

加藤委員 : 横浜市の表彰制度で使っている「デザイン」という言葉は大田区には合わない。まちづくりという言葉には人づくりも含まれていると思う。

KGK : キーワードとしては、まちづくり、後世につながるという意味で未来、人といったものが出ている。

事務局 : 景観まちづくり賞ではどうか。

野原部会長 : 景観まちづくり賞ということにしたい。

【推薦の対象について】

- 庄委員 : 街並み景観部門は建築物や空間といった物理的な対象ありきなのかと思ったが、表彰の対象は所有者、設計者などが対象になるので、景観が対象になるわけではない。
- 加藤委員 : 景観審議会では周辺との関係性を重視するという説明だったので、表彰の対象は所有者、設計者ではないと思う。
- 庄委員 : いわゆる建築デザイン賞や都市空間大賞と景観は明らかに違う。見る人も含めての景観なので、個々の建築物ありきにしてしまうのはいかなものか。
- 加藤委員 : 大田区景観計画で指定する景観資源に関連するものや景観形成重点地区内にあるものなど、区として景観を良くしていこうという場所から選んだ方が大田区らしさが出て良いと思う。
- 事務局 : 大田区の場合、景観行政が始まったばかりなので、区民に関心を持ってもらう意味で推薦する際の間口は広くしておきたい。場合によっては表彰の対象者がいないこともあるかもしれないが、景観賞を通じて良い景観が紹介できるとよい。
- 杉山委員 : リノベーションした物件が受賞する例があるが、ただ建築物をきれいにしただけでなく、道路からセットバックした部分にオープンカフェ、植栽、照明を設けることでそれがまちに良い影響を与えていることがある。新しい景観の価値を創出したものが景観賞に値するし、景観的な配慮があることが重要だと覆う。足下が広い庭になっていても、逆に建物への出入りがしづらいつらいつらといったデメリットがあり評価されないこともある。お祭り広場などに提供される広場など、まちに貢献しているものもあり、まちとの関わりも重要だと思う。
- 加藤委員 : 景観は随時新しく変わっていくことを考えると、創造的な景観もある。様々な視点で区民の意見を聞いた方が良いので、一定の条件がない方が良いと感じた。
- 野原部会長 : 推薦対象は書いてあるが、選考基準の議論はまだない。どういうものを募集するか、どういうものに賞を与えるかといった2段階を考える必要がある。初めての景観賞になるので、推薦の対象の間口は広くし、選考で絞っていけば良いと思っている。今後選考基準は密に議論していきたい。ただし、推薦の対象のコンセプトについては、想定していたものと違うものが推薦されないよう、こちらが想定している推薦内容に関するメッセージを出しておかないといけない。
- 街並み景観部門は周辺の雰囲気を含めて良い、場として人も含めて見て良い建築物等を選んでおいたほうがよい。努力の結果も評価するが、

見た目が良いものを選んだ方が良い。より活動に力を入れている場合は景観づくり活動部門で評価すれば良い。

風景としてきれいな自然景観は今回選ばなくても良いと思う。何らかの形で人の手が加わり、景観が向上しているものを選んでいきたい。ただし、それを推薦の対象として記載してしまうと、推薦する側が迷ってしまうので、選考の段階で判断していけば良いと思う。

荘委員 : 間口を広げるのは良いと思う。自然景観だけのものを除外するというのも理解できるが、端的に多摩川から見える富士山、羽田空港から飛ぶ飛行機が好きだけでなく、例えば季節や時間によって見られる風景が違うということが大田区らしいと思っているなど付加価値があれば、排除しなくて良いと思う。景観賞を実施することにより、これまで景観を考慮することがなかった区民が景観に触れるという意味で身近な例は排除しなくても良いと思う。ただし、推薦にあたって何か工夫が必要ということは分かってもらった方が良い。

個々の建築物でも何らかの工夫や配慮がなされているということを考えると、例えば、公共性に配慮するといったキーワードを示しても良い。推薦の対象にある「きれいな場所」については、「居心地が良い」、「快適」など表現は工夫してほしい。

野原部会長: 推薦の対象としてあげている3~8点目までは表現の工夫が必要である。

平澤委員 : 池上本門寺の近くに呑川があって、散歩など憩いの空間になれば良いと思う。池上駅から池上本門寺までは門前の街並みとしての雰囲気づくりができていない。駅舎も同様である。池上本門寺に通じる本門寺商店街は人が訪れる雰囲気が良い街並みになってほしい。街並みとして見たときに、必ずしも古い建築物が良いとは限らないので、近代的な建築物でも商店街に合っている場合がある。景観賞は段階的に景観づくりを評価していく活動と街並みとして寄与している部分の間くらいから入っていくのか。具体的な場所に当てはめるとどのようなものが景観賞で推薦されるのか。

杉田委員 : 自然景観はそのままの姿でも価値があるので、景観賞だけでなく、別の方法で取り上げていくことを考える必要がある。

景観はひとつの要素では無く、いかに周囲との関係に配慮して構築していくが重要なので、それらを表彰することによって、周囲に配慮が必要だと分かってもらうことが重要である。景観づくり活動部門は守っていききたい景観を地域などが活動していくことを表彰することで良い景観が守られていく。

野原部会長: 推薦の対象でどのような書き方をするかだと思う。景観計画を守って

もらうことを念頭におけば、建築行為者に周知する必要がある、建築物の変更行為に該当する物件を重視する。一方、建築物等を見る側は関係なくて、ソフトもハードも含めて良いものが出てくる。初めての景観賞なので、間口は広めにとって、推薦されたものを見ながら、本日出た意見を踏まえ、今後選考基準を整理していきたい。推薦の対象については、周囲との関わりを示唆しつつ、工夫がなされているものとし、当落選上のあるものは選考の中で決めればよい。次回選考基準に関する議論はしたほうがよい。

杉山委員 : 富士見坂のような富士山が見える状態を残してくれたマンション所有者を表彰するなど、風景や自然との関わりに参画した経緯、活動、行為も褒めて良いと思う。埼玉県所沢市には荒幡富士というものがあり、耕作地で力を合わせて富士塚(高さ18m)をつくるという活動があり、その活動が広がりを見せている。今後期待するといった意味で景観づくり活動部門を活用することもあると思う。

加藤委員 : 街並み景観部門では大田区らしい街並みが出てきてほしい。町工場、商店街のにぎわい、田園調布や洗足の街並み、羽田の漁師町、羽田空港など大田区らしいものが一通り表彰してから、次の新しい視点があっても良いと思う。

事務局 : 昔からしっかりやっている団体はしっかりがんばっている。それらは一通り表彰しないといけないと思っている。

野原部会長 : 受賞数でもコンセプトが変わってくる。5つ表彰できれば、その内の3つは昔のものを選ぶといったこともできる。

推薦の対象については、本日の意見を踏まえて再整理してほしい。

また、景観の見方をうまく発信できる方法を検討していく必要があると思う。大田区らしさをどう意識していくか、周知方法を工夫していくほしい。

【推薦理由について】

野原部会長 : 推薦理由は推薦の対象にも通じるのでセットで整理したほうがよい。推薦理由はあまり書きすぎないほうがよい。選考の段階で厳しく審査するということが良いと思う。

杉山委員 : 景観づくり活動部門の2、3点目の内容が似ている。また、地域の歴史も関係していると思う。

野原部会長 : 事務局としては、推薦理由があった方が選考しやすいと考えているのか。

KGK : 推薦の対象と推薦理由の2段階の絞りががあるので、推薦の対象だけを示

すということでも良いと思う。両方合った方が良いか。

杉山委員 : 推薦理由を書かない人もいる。推薦理由を選択式にすれば、回答してくれるかもしれない。

KGK : 審査にあたって、推薦理由のような情報は必要か。

野原部会長 : 厳密にやると、推薦理由は選考基準そのものになるので、かなり議論が必要である。推薦の対象と同じ内容を選択してもらっても良いのではないか。

事務局 : 推薦しやすいことが重要。推薦理由を選択式にすれば簡単に回答してもらえる。

野原部会長 : 推薦理由は推薦の対象に対応した方が良い。

事務局 : 今後は選考基準の検討が必要である。

野原部会長 : 景観づくり活動部門の推薦理由に「イベント」とあるが、これでも推薦されてしまうので言い方は少し工夫してほしい。

加藤委員 : カテゴリーを選んでもらっても良い。用意したカテゴリーになれば、その他で自由記入してもらってもよい。

【受賞者に授与するプレートの取扱について】

加藤委員 : 受賞物件には必ずプレートを置いてもらってほしい。受賞の条件にしても良いかもしれない。プレートがあれば、まち歩きで紹介することができる。

野原部会長 : プレートを奥にしても、プレート自体や置き方によっては景観阻害要因になってしまうので注意が必要である。

(2) 景観賞キックオフイベントについて

- ・KGKより「資料1(仮称)大田区景観賞(案)について」を用いて説明。

【シンポジウム及びミニイベントの実施について】

加藤委員 : 関係部局と一緒に実施した方がよい。大田区観光協会や地域力推進課と連携して、イベントへの動員を含めて、広く周知してほしい。

イベント内容については、まずは講義があり、その後まち歩きを行い、その結果をグループワークでまとめるといった、参加型として成果が残るようにしてほしい。インパクトのあるイベントができると思う。ただし、時間的には1日必要になると思う。

事務局 : 関係部局とは連携していきたい。この機会を活かし周知していきたい。

野原部会長 : 実際に景観に携わる人にも景観を勉強してもらう機会にしたい。関わりそうな人達には積極的に周知などを行ってほしい。

- ミニイベントについては、いくつ実施する想定なのか。
- 事務局 : 複数実施できればと思っているまち歩きについては、1案で5~6人くらいの方を想定している。あまりに参加者が多いと困るかもしれない。
- KGK : 平成24年3月実施の東工大キャンパスウォークでは20~30名程度が参加した。
- 事務局 : 景観賞とは何かを考えるために、参加型で景観賞に該当しそうなものを探しても良い。
- 加藤委員 : 一方的にまちを案内するのか。ワークショップ形式が良いのか。講座形式が良いのか。区民を巻き込むのであれば、ワークショップ形式が良いかもしれない。ただし、そのためには準備が必要である。
まち歩きをするにしても、専門家が案内する場合と、ボランティアが案内する場合で違う。今回は専門家がまちづくりの観点から実施した方が良いと思う。
- 杉田委員 : どういった参加者を想定するかによると思う。専門家であれば学生が参加するし、ボランティアであれば蒲田周辺の居住者が参加すると思う。
- 事務局 : 具体的なターゲットまで絞りきれていない。
- 野原部会長 : まち歩きの視点をどう整理するかだと思う。シンポジウムでまち歩きの結果をプレゼンテーションできると良いので、イベント当日の構成を考えてほしい。全体を通してつながっていないといけない。まち歩きなどとシンポジウムの連動を考えてほしい。
今回は景観賞に関するイベントになるので、まち歩きは、景観の良い点を探すような前向きな視点で実施してほしい。
- 杉山委員 : 景観となるとそれなりにビジュアルが必要になるが、まち歩き参加者が撮影した写真をそのまま活用することは難しい。事前準備が必要である。
- 野原部会長 : まち歩きなどにどこまで力を入れるのかだと思う。
- 杉田委員 : 普段聞くことができない、普段入れない場所から見られるといった付加価値があると良い。
- 加藤委員 : 通常まち歩きはシニア層の参加が多いが、大学と連携するなど、学生などの若い人が参加してもらえると良い。
- 野原部会長 : シンポジウムとの連動を考えつつ、2つくらいのイベントを実施する程度で良いのではないか。実施して好評であれば次回につなげられると良い。実施内容は考えてほしい。

【景観関連資料（パネル）の展示について】

- 杉田委員 : 展示はシンポジウムが行われるアプリコでは行わないのか。
- 事務局 : 200 名程度入る会場なので、当日限りになるが、展示もできるかもしれない。
- 杉田委員 : 本庁舎 3 階に展示を見に行く人は少ないと思うので、シンポジウム当日に見せられると良い。
- 野原部会長 : 主要な展示物はシンポジウム会場で展示しても良いのではないか。
- 加藤委員 : 大田ユネスコ協会が大田区らしさをテーマに写真コンテストを開催した。景観にも関連する。連携しても良いと思う。
- 野原部会長 : いろんな主体が作成したマップを集めても良いかもしれない。
- 事務局 : 他の自治体の景観賞のチラシなどを展示しても良いかもしれない。
- 杉山委員 : ビジュアルな仕込みも必要であり、景観計画策定時に作成した様々な資源などの分布図を見せても良いと思う。これまでやってきたことをアピールしても良い。
- 池上本門寺周辺の地図を拡大して、参道がどこかなど、できると良い。
- 高低差地図などそういったものも出せると良い。

【その他】

- 加藤委員 : 池上駅を出ても、池上本門寺というイメージがない。葛飾区の柴又帝釈天は柴又駅前にモニュメントがあるなど柴又帝釈天に誘導されるようなイメージがある。まちづくりの観点から言うと、駅前から池上本門寺に誘導するような工夫が必要である。
- 杉山委員 : 豊島区の鬼子母神は、参道を石畳にして、周辺の街並みが良くなった。
- 平澤委員 : 個店の力が弱まり、商店街も力がなくしている。何か提案しても響かない。課題解決のための受け皿がない。オーナーが建物を賃貸する商店街になりつつある。商店街に何かを求めるのは難しい。
- 野原部会長 : 地図は、どうしたら一体の地域として見られるかといったときに俯瞰して見られる重要なツールである。まちや景観の育て方についても、今後景観審議会を通じて検討してもよい。
- 加藤委員 : 昔は商店街と池上本門寺に商売的なつながりがあったが、今は薄れている。池上本門寺でイベントを開催するということでも連動した動きは少ない。そういった関係性をどう取り戻していくか。どちらかというところ、商店街は地元客を当てにしないと食べていけなくなっている。
- 杉山委員 : 大きい地図や航空写真を印刷して、参道意識を持ちながら、地図を書くことで新たな視点が生まれたり、土地の意味などを考えたりすることができる。

平澤委員 : 店内の壁面が展示スペースになるので、地図を貼るなどし、料理が出てくるまでに見てもらえるなど、映像化すると良いと思う。

(3) 広報について

- ・事務局より「資料3 (仮称) 大田区景観賞スケジュール (案)」を用いて説明。

【審査スケジュールについて】

野原部会長 : 募集締切からのスケジュールがタイトなので、次回しっかりスケジュールを示してほしい。

2. その他 (次回日程について)

- ・第2回景観賞専門部会は平成27年6月2日(火)18:00から開催する。(会場は後日決定し次第連絡する)